

## 家庭で育ち、園で学び、地域で伸びる

園長 日高 好治

東俣地区は、鹿児島市内でありながらも地域ぐるみで子どもたちを支えようとする気風が残る地域だなあと実感しています。

例えば、園児のお散歩の際に、途中で出会った地域の方は手を振りながら、園児たちに声をかけてくださいます。「子どもは地域の宝」という思いがなければこの時代、子どもたちに声を掛ける姿はなかなか見られるものではありません。

また、東俣幼稚園の特色ある保育として取り組んでいる「芋植え」「芋掘り」「田植え」「稲刈り」は地域の方の協力が無ければできるものではありません。自然が豊かであること、そして、地域ぐるみで子どもたちを育てる気風があるからこそ、このような保育ができるのだなあと感じます。

昔は、家庭や幼稚園、地域の距離が近く、共有された空間のようなものがありました。子どもたちはその中で色々なことを学び、感じていたように思います。それは、目には見えませんが交流することで得られる「絆」であったのではないのでしょうか。その絆が、東俣地区には今も残っているように感じます。

新型コロナウイルス感染症の為に人との距離が遠くなっている今だからこそ、大切にしたいものです。子どもは、いつの時代であっても、家庭で育ち、園で学び、地域で伸びる存在であると思います。



1冊の本を通して親子のふれあいを！

♥ 親子読書は、子どもの感性や心を豊かにする貴重な時間になります。

### 県立図書館からのお知らせです

「にじいろえほん」は、大人になるまでにこれだけは読んでおきたい本を子供の成長に合わせて、「にじ」と同じ七色で紹介しています。

【例】

あおいろ(3歳頃) 「あおくんときいろちゃん」「おへそのあな」「カラスのパン屋さん」他(全22点)

ももいろ(小学校1年生) 「おおきなおおきなおいも」「どろんここぶた」「10までかぞえられるこやぎ」他(全19点)



## 園児とのふれあいを通して

幼稚園での生活の中で、園児とのふれあいの一こまをお伝えします。



「園長先生、ちょうちょがいるよ。」という園児の声に誘われて、廊下に出ると梅雨の晴れ間に一匹の蝶が迷い込んでいました。よく見ると、羽に黒い筋のあるイシガキチョウでした。羽を壊さないように優しく捕まえて、みんなで観察しました。そして、「この後、どうしようか？」と、たずねると、「逃がしてあげよう。」の声。窓からみんなで逃がしてあげながら「元気だねー」と見送ってあげました。小さな生き物の命も大切に作る子どもたちです。



ある朝、もも組の園児が職員室の私の所にやってきました。「ここで見たい。」と一言。手を見ると生き物図鑑を持っています。「ここで見たいんだね、どうぞ。」というので、近くにあったキャスター付きの椅子を押し寄せて、私の横に陣取って、ニコニコして椅子に座りました。その時、担任の先生の呼ぶ声が聞こえ、急いで帰っていく園児を見ながら「また、今度一緒に見ようね。」と声を掛けました。とても微笑ましいひと時でした。



6月10日の園外保育でのことです。大きな円になってみんなで弁当を食べている時のちゅうりっぷ組の男児2人の会話です。「僕のハンバーグ、ハートの形しているよ。」「僕の卵焼きもハートの形をしているよ。」二人はニコニコしながら食べています。隣で食べていた私も「お母さんが作ってくれたんだね。うれしいね。」すると、そのうちの一人が「ハートの形をどんなふうにしたのかな？」すると、もう一人が「へこんだところをハサミで切ったんじゃない。」二人の結論は、ハサミで切って作ったということになったようです。